

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関有知高等学校 学校番号 34

## I 自己評価

|             |   |   |  |
|-------------|---|---|--|
| 1 学校教育目標    | 生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった逞しく実践力のある心温かな人間を育み、よき地域社会人の育成を目指す。   |   |  |
| 2 スクール・ポリシー | 『育てたい生徒像』<br>グラデュエーション・ポリシー（GP）<br>・地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として社会に貢献できる生徒。<br>・基礎力を身に付け、優れた創造性と豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協働できる生徒。<br>・SDGsの視点に立ち、広い視野から思いやりの心を持って物事を考え、社会や地域の抱える課題の解決に、積極的かつ継続的に取り組もうとする生徒。 | 『生徒をどう育てるか』<br>カリキュラム・ポリシー（CP）<br>・生徒一人一人の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するための、基礎力の習得を重視したカリキュラムの編成。<br>・ICT機器を活用した授業、習熟度別授業、少人数授業・ティームティーチング等の多様な授業形態及び評価を工夫した、個々に応じた細かな指導の実施。<br>・地域の暮らしや仕事に親しみ、地域文化の素晴らしさを実感するとともに、SDGsの視点から地域や社会の課題を考える体験の実施。 | 『どんな生徒を待っているか』<br>アドミッション・ポリシー（AP）<br>・地域の暮らしや仕事、文化に興味を持ち、将来、地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として地域の課題を解決していきたいと考える生徒。<br>・基礎力をしっかりと身に付け、自らその上にさらに深く学ぶことで、自身の可能性を伸ばし、進路目標を実現したいと考える生徒。<br>・思いやりの心とコミュニケーション能力を持ち、社会で他者によりよく関わり、社会貢献をしたいと考える生徒。 |

## 【 総 務 部 】

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| 3 評価する領域・分野  | ◇校内研修・読書活動・地域連携事業【総務部】  |  |  |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>関有知マルシェのアンケート結果より</li> <li>「関有知マルシェの活動を行って良かった」という生徒が全体の88%。</li> <li>「関有知マルシェの活動内容は満足がいくという生徒が全体の86%。</li> <li>「関有知マルシェの活動に参加して良かった」という外部講師が100%。</li> <li>関有知ジモト大学、関有知マルシェを通して、社会人基礎力がついたという生徒が増加しており、コミュニケーション能力が高まったなどの意見が多くあり、生徒を成長させる機会のある行事であった。</li> </ul> |  |  |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校行事の中で多様な経験を積むことで優れた創造性と豊かな社会性を培っていく。</li> <li>◇研修を通じて教師の指導力向上と授業改善を図る。</li> <li>◇読書指導と図書館活動の充実を図る。</li> <li>◇開かれた学校を目指し、保護者・地域に本校の教育活動への評価を改善に活かす。</li> </ul>   |  |  |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用を推進する組織体制（図書担当、図書委員会）</li> <li>・関有知マルシェ実行委員会（教員、有志生徒、NPO法人ぶうめらん）</li> </ul>  |  |  |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組  | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研究授業・校内研修を通して、教師としての指導力の向上を目指す。</li> <li>(2) 学校行事を通して多様な経験をさせ、創造性と社会性を培っていく。</li> <li>(3) 学校行事・公開授業、その他の学習活動の発表を通じて、保護者・地域と連携を図る。</li> <li>(4) 読書指導と図書館活動の充実を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教師相互による授業評価と授業研究</li> <li>(2) 各学校行事の生徒アンケート</li> <li>(3) 学校関係評価の向上。</li> <li>(4) 読書感想文・朝読書・総合的な探究の時間における読書活動を通じた読書指導と図書館利用を推進するための広報活動の充実。</li> </ul>  |  |  |
| 9 取組状況・実践内容等   | 10 評価視点   | 11 評価  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な授業公開</li> <li>・授業研究の実施。</li> <li>・「関有知マルシェ」の開催。</li> <li>・図書委員会による啓発活動</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①公開授業と授業研究・授業評価研究の実施。</li> <li>②学校見学会参加者のアンケート結果</li> <li>③関有知マルシェの感想。</li> <li>④ 図書貸出数。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul> |  |
| 12 ○各教科において、生徒自らが考え行動する「ICTを活用した参加型授業」の場   |   |  |  |

|   |  |                            |
|---|--|----------------------------|
| 成果・課題   | <p>面が増加し、授業中生き生きと活動している生徒が多く見られる。</p> <p>○学校見学会は2日間で25の中学校から253名の中学生と166名の保護者の参加があった。(昨年度は、25の中学校から236名の中学生と142名の保護者。)</p> <p>○2学年全員が地域の方を講師とした「関有知マルシェ」を開催できたことは大きな成果であった。</p> <p>○図書室利用(貸出・閲覧)が増加している。</p> | <p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p> |
| <p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の「関有知ジモト大学」の発展的活動の拡大。</li> <li>・「学校見学会」の改善。</li> <li>・研修主事の企画・立案による校内研修・授業研究の活性化。</li> </ul> |  |                            |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月1日

|   |
|---|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関有知マルシェについて、学年全体の規模で取り組めたのはよかった。</li> <li>・関有知マルシェについて商店街に活気が生まれてよかった。</li> <li>・関有知マルシェについて、生徒の満足度が高いが、教員の満足度はあまり高くない。また、来年度のマルシェについて教員、講師ともにどちらとも言えないが半数あり、再検討が必要である。</li> </ul> |
|---|

【 教 務 部 】

|  |  |   |
|--|--|---|
| 3 評価する領域・分野  | ◇教育課程・学習指導・情報管理【教務部】   |   |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートや保護者アンケートにおいて本校の授業や学習支援、ICTの活用などについての評価は良好な状態が継続している。</li> <li>・ホームページの活用、家庭学習の定着への取り組みについての評価は比較的低い状態が継続している。</li> <li>・基礎力診断テストの平均学力に大きな変化は見られないものの、日常的に「勉強をやらない」と回答する生徒の数は減ってきている。</li> </ul>  |   |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇新しい教育課程に基づいた教育活動を円滑に行えるように支援する。</li> <li>◇授業評価アンケートや保護者アンケート、教員の自校評価等を活用して、学校の状況を客観的にとらえ改善につなげる。</li> <li>◇本校の実情に合ったICT機器の活用方法を研究するとともに、活用を積極的に推進する。</li> </ul>  |   |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より取り組んでいる教務部の業務改善に継続的に取り組む</li> <li>・ホームページの更新やICT機器の管理・整備などで教師業務支援員の支援を受けながら効率的に業務を実施する。</li> </ul>  |   |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組  | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい教育課程の実施や観点別学習評価の実施を支援する。</li> <li>(2) 新しい教育課程に対応した教務支援システムを円滑に利用できるように支援する。</li> <li>(3) ICT機器の整備および日常的な活用を支援する。</li> <li>(4) ホームページなどをスマートフォンでの閲覧に対応できるよう大幅アップデートを行う。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教務部による内部評価および職員による相互評価</li> <li>(2) 保護者や生徒によるアンケート</li> <li>(3) ICT機器活用の頻度と内容の充実</li> <li>(4) データのまとめの作成と、分析を実施する</li> </ul>  |   |
| 9 取組状況・実践内容等   | 10 評価視点  | 11 評価   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい教育課程実施に向けた支援及び観点別学習評価実施に向けた支援</li> <li>・時間割、行事計画、定期考査成績処理など日常的業務の運営</li> <li>・ICT機器の整備、積極的活用の啓発</li> <li>・ホームページの更新と活用</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>①日常的業務は円滑に実施することができたか</li> <li>②新しい教育課程への対応への支援は充分であったか</li> <li>③ICT機器の整備活用は充分であったか</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> </ul> |
| 12 成果・課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間割や定期考査、成績処理などの日常業務や新課程に向けた校務支援システムへの対応は、先を見通して支援を行い大きなトラブルは起きなかった。</li> <li>○ICT機器については本校の生徒に適した形で、無理なく日常的に活用することができている。</li> <li>○教務部の活動に対する各種アンケートおよび教員による相互評価もおおむね良好である。</li> <li>▲新しい教育課程に対する対応もおおむね順調であるが、観点別学習評価については混乱も見られるため、さらなる整理が必要である。</li> <li>▲ホームページの改善は大幅アップデートということもあり、まだ完了できていない。</li> </ul> |   |
| 13 来年度に向けての改善方策案   |  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生においても新しい教育課程を実践し、課題を抽出・改善しながら教育活動を行う。また、観点別学習状況評価の実施についてさらに整理を行い自信をもって評価をできるようにする。</li> <li>・更新予定のホームページを運用するとともに、ホームページと各種ICTアプリの役割を整理し、適切に活用できるようにする。</li> <li>・授業評価や学校評価アンケートを活用し、学校の課題を客観的に把握できるようにする。</li> </ul> |  |   |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月1日

|  |
|--|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページがスマートフォン対応にリニューアルされることに期待している。リニューアルされたホームページを活用して、関有知高校の生徒の活躍の様子をたくさん紹介してほしいと考えている。</li> </ul> |
|--|

## 【 生徒指導部 】

|  |   |                                     |
|--|---|-------------------------------------|
| 3 評価する領域・分野  | ◇生徒指導（教育相談）・特別活動 <b>【生徒指導部】</b>   |                                     |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学校生活をとおして、社会規範やモラル、マナーを身につけさせようとする取り組みについて、生徒、保護者共に一定の理解が得られている。</li> <li>・いじめ、嫌がらせ行為について「絶対にゆるさない」という厳しい対応をとっているということに対して、生徒保護者共に理解が得られている。</li> </ul>  |                                     |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒一人ひとりの個性や長所を伸ばし、自己肯定感を高めることをとおして、「自分の命」や「相手の心」を大切にすることができる生徒を育成するための働きかけをする。</li> <li>◇社会で他者と関わり協働することができる生徒の育成を目指し、規範意識の定着やコミュニケーション能力を高めるための支援をおこなう。</li> </ul>   |                                     |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導⇒担任から学年主任、生徒指導へとスムーズに情報が伝わるような流れをつくり、問題行動等に迅速に対応する</li> <li>・生徒支援⇒教育相談係を中心に、SCや外部機関との連携を図る</li> <li>・いじめ未然防止⇒各種アンケートや調査結果をもとに、いじめ対応生徒指導委員会に対応</li> <li>・特別活動や校内行事⇒特別活動係を中心にMSL、生徒会執行部の活動を通して、学校生活や地域への貢献活動に取り組む</li> </ul>  |                                     |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組  | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |                                     |
| (1)生活指導（身だしなみ、遅刻、スマートフォンの使用、授業規律の指導）<br>(2)生徒理解（学年会や職員会議での情報交換会の実施）<br>(3)教育相談（各種アンケートの実施による、いじめ・迷惑行為の早期発見と対応）<br>(4)特別活動（生徒会、MSL活動など、生徒の主体的な活動を支援し、生徒自身が学校生活の質を高められるようにする）  | (1)各種生徒指導の状況や問題行動の状況、生徒意識調査などの結果<br>(2)保護者・生徒対象の各種調査結果<br>(3)保護者・生徒対象の各種調査結果<br>(4)保護者・生徒対象の各種調査結果（生徒の行動や思考の変化）   |                                     |
| 9 取組状況・実践内容等   | 10 評価視点   | 11 評価                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導（身だしなみ、スマートフォンなど）</li> <li>・生徒が抱える課題への対応と職員間の情報共有</li> <li>・生徒会やMSLによる交通安全啓発活動の推進</li> </ul>   | ① 学校生活全般の規律<br>② いじめ・迷惑調査などの回答結果とその後の対応<br>③ 交通事故報告件数   | A (B) C D<br>A (B) C D<br>(A) B C D |
| 12 成果・課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ MSLや生徒会執行部による「あいさつ運動」や「交通安全啓発活動」など係の生徒が主体的に全校生徒に呼びかけを行うなど年間を通して継続的に活動することができた。</li> <li>○ 不安や悩みを抱える生徒に対し、早期に情報を共有し組織で対応することができた。</li> <li>▲ コロナ禍の生活からコロナ以前の生活に戻りつつある中で、生徒の登校意欲や規範意識の低下がみられる。学校生活の様々な場面において、社会に出た際、「大人」として通用する考え方や行動ができるよう、全職員で粘り強く声掛けを行っていく必要がある。</li> </ul> |                                     |
| 13 来年度に向けての改善方策案   |   |                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活に必要な公共のマナーや社会性の定着を図り、規範意識の醸成を促す働きかけを行う。</li> <li>・個人の特性として、支援や配慮を必要とする生徒が増加している。教育相談を中心に、関係する機関等との連携を図り生徒の支援を行う。</li> <li>・コロナ前の生活に戻りつつある中で、生徒会活動やMSL活動、各種委員会活動、部活動を通し、地域との連携活動を実施していく。</li> </ul> |   |                                     |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月1日

|  |
|--|
| <b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を見ると、生徒指導に関する学校の思いは生徒に伝わっていると感じた。同じ項目で保護者評価が低いのは、学校内での様子が伝わりづらいことが理由ではないか。</li> <li>・コロナ禍で途絶えてしまった部活動による地域との交流活動について、来年度以降、積極的に交流出来るように。</li> <li>・学校の活躍の様子（部活動実績など）を地域住民にも広げていきたい。</li> </ul> |
|--|

## 【 進 路 指 導 部 】

|                                  |   |  |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
|----------------------------------|---|--|--|--|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|---|---|---|---|-----------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|---|---|---|---|-----------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|---|---|---|---|
| 3                                | 評価する領域・分野   | ◇進路指導部   |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 4                                | 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | ・進路決定に必要な進路情報の提供および適切な進路指導について、具体的に示しながら指導できていると、生徒には理解してもらえている。しかし、保護者に対しては、今、進路指導では何をしているのか、わが子がどんな進路学習をしているのかという部分がなかなか伝わらない。これらの情報発信をしっかりと工夫していきたい。  |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 5                                | 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | ◇生徒自らが、進路を選択できる能力や態度を育成するため、発達段階に応じた適切な進路ガイダンス等を計画し、個々の生徒の進路希望を具体的に掌握する。<br>◇望ましい勤労観・職業観の育成に向けた体験的活動を実施するとともにキャリアプランナーをはじめ関市や地域の外部団体との連携を推進する。   |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 6                                | 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・進路指導マップで月ごとの進路指導目標を示すことにより、全職員の共通理解のもと、進路指導を進める。<br>・学年会・進路指導部会での情報交流と連携を重視した指導体制。<br>・進路指導部・総務部による連携を強化し、総合的な探究の時間をキャリア教育につなげる。  |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 7                                | 目標の達成に必要な具体的な取組   | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
|                                  | (1) 校内外進路ガイダンス等の実施<br>(2) キャリアプランナーや関市商工課と連携した企業との情報交換や企業ガイダンス  | (1) 生徒の感想、企業、上級学校の感想、卒業後の生徒の様子<br>(2) 生徒の感想、関市商工課や企業の感想  |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 9                                | 取組状況・実践内容等  | 10 評価視点  | 11 評 価   |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
|                                  | ・オリエンテーション、職業調べ、大学調べ、進路なんでも相談会、3年生との交流会(全学年)<br>・ようこそ先輩、企業見学ツアー、大学見学ツアー、進路別体験講座(1年生)<br>・インターンシップ、進路別ガイダンス、職業体験インタビュー、進路別体験講座(2年生)<br>・進路別対策講座、面接・小論文指導、進学就職補習、合格者・内定者指導(3年生)<br>・会議・情報共有の改善(教職員)   | ①就職や進学についての関心を高めることができた。<br>②仕事に対する考え方を深めることができた。<br>③進学に対する視野を広げることができた。<br>④目指す進路に対してより具体的に考えることができた。  | <table border="0"> <tr> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> |  | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | A | B | C | D | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | A | B | C | D | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | A | B | C | D |
| <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/>   | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| A                                | B   | C  | D  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| <input type="radio"/>            | <input checked="" type="radio"/>  | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| A                                | B   | C  | D  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| <input type="radio"/>            | <input checked="" type="radio"/>  | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| A                                | B   | C  | D  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 12                               | 成果・課題   | 総合評価   |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
|                                  | ○進路部会と学年会が連携してガイダンスや行事の企画運営ができた。<br>○新型コロナウイルスの影響で中止や縮小になっていた行事を対面で行うことができた。<br>○キャリアプランナー、関市商工課と協力し企業展や企業見学を行った。地元の企業との連携を図りながら本校の生徒の様子を知ってもらいきっかけとなった。<br>○2年生インターンシップでは、2年生全員が、働くことの意義や必要性を感じる事ができた。<br>○1年生は、大学見学ツアー、企業見学ツアーを通して自らの進路について真剣に考えることができた。<br>○3年生は、企業展、会社見学を通して将来の自分や自分にできることに向き合いながら、自らの進路を決定するための知識を増やすことができた。<br>▲進路ガイダンスや行事の効果を最大限に生かせるように、十分な準備ができるようになった。<br>▲保護者や地域の人たちが、関有知高校の取り組みを知ることができるように情報発信の方法を検討していく必要がある。 | <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> |  |  | A                                | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | A | B | C | D |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| A                                | <input checked="" type="radio"/>  | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| A                                | B   | C  | D  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |
| 13                               | 来年度に向けての改善方策案   | ・「進路マップ」を見直し、生徒のキャリア教育において、必要な時期に必要な行事ができているかを再検討し、成果が得られる指導体制を構築したい。指導の時期とその効果の検証をしていく。<br>・卒業後の進路や、今後働き始めたからの人生の選択肢を増やすためにも、最低学力の保証ができるように日々学ぶ姿勢の大切さを示すとともに、日々の宿題を出すことで、家庭での学習時間の創出と定着を図りたい。                   |  |  |                                  |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |                       |                                  |                       |                       |   |   |   |   |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月1日

### 【意見・要望・評価等】

- ・生徒の学校評価アンケートでは、進路指導の項目は高い評価をされている。多くの生徒が進路先を県内や東海エリア内にとどめていることは、地域社会人の育成につながっている。
- ・様々な行事がある中、校外で行う行事については、学外でしかできないことは何かということを考えて行事計画できるとよい。
- ・いろいろな面で企業の方との関わりも増やしていけるとよい。

## 【 家 庭 教 育 部 】

|  |  |                                     |
|--|--|-------------------------------------|
| 3 評価する領域・分野  | ◇「家庭教育部」   |                                     |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価は、テスト以外の観点からも評価していることは理解されているが、授業の教え方や説明が分かりにくいという生徒もいるため、授業内容の精選と指導法の工夫に加え、検定等の合格率を上げ、生徒に達成感を感じさせなければならない。</li> <li>・「学校行事のボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」の評価が保護者の方にはあまり理解されていなかった。</li> </ul> |                                     |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | ◇専門科目の授業、検定、外部講師講習会を通し、より専門的な知識と技術の向上。<br>◇ボランティア・地域交流活動に積極的に参加することを通し、実践力・コミュニケーション力を育成し生徒の課題解決能力を高める。  |                                     |
| 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科行事の企画</li> <li>・運営と研究推進</li> <li>・学校家庭クラブ活動</li> <li>・Sクラブ活動の指導</li> </ul>   |                                     |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組  | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |                                     |
| (1) 専門科目・コースの系統立てた授業と効果的な外部講師講習会の実施<br>(2) 専門科目および学校家庭クラブ活動、Sクラブ活動、福祉協力校の活動、ボランティア活動を通じた地域交流の促進  | (1) 生徒および外部講師による評価および各種検定やコンクールの取り組みと成果<br>(2) 生徒および地域交流施設による評価・助言   |                                     |
| 9 取組状況・実践内容等   | 10 評価視点  | 11 評 価                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目・コースの系統立てた授業内容と外部講師講習会内容の見直し</li> <li>・各種検定試験、コンクールへの挑戦</li> <li>・対面交流以外での地域連携と交流（関市社会福祉協議会・特別養護老人ホームハートフル・あかつき障害福祉サービス事業所つくし・安寝ふれあいクラブ・下有知保育園）</li> </ul> | ①知識・技術の定着、実践と各種検定・コンクールへの応用<br>②検定合格数、コンクールへの取り組み状況<br>③地域交流施設等による評価と助言  | A (B) C D<br>(A) B C D<br>A (B) C D |
| 12 成果・課題   | ○新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、計画通り外部講師講習会を実施することができ、生徒により専門的な知識と技術を習得させることができた。多くのコンクールや作品応募に挑戦させることができた。検定試験も計画通り実施し種目・級によっては高い合格率であった。<br>○生活産業分野への関連企業への就職・進学が増えた。<br>▲校外でのボランティア活動は実施が難しかったが、できるだけ校内でのボランティア活動の機会を作り行ったつもりでいたが、あまり理解を得られていなかった。   |                                     |
| 13 来年度に向けての改善方策案   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導において、入学時より教科の学習や学科行事など様々な場面において進路について考えさせ、家庭科への学習意欲を高め、生活産業分野および地域において活躍できる生徒を育てる。</li> <li>・校内および学校周辺で行うことができるボランティア活動を実施し、状況に応じて周辺施設でのボランティアを実施できるよう準備していく。</li> </ul>                         |                                     |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月1日

|  |
|--|
| <b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面以外の方法で様々なボランティア活動に取り組んでいた。来年度は出来る範囲で対面でのボランティア活動を行って欲しい。</li> <li>・専門科目の特徴ある取り組みや、検定、外部講師講習会、学科の行事など、HPなどで校外に発信していく。</li> </ul> |
|--|